

PHOTO 岡宮誠一

# 生研 ニュース

1993.6.1  
No.22

IIS TODAY

●第5部  
橘 秀樹  
教授

本所では、生研公開、生研セミナー・講習会、学術講演会などさまざまな形で外向けの活動に力を入れてきており、大学の研究機関としては非常によくやっている方と言えよう。しかしそれでも六本木に生研がいろいろな研究をしているということは、一般にはそれほど知られていない。

橘教授は研究面で外部との交流・広報などを担当する本所の研究交流委員会の委員長を昨年10月から務めている。目下の最大の仕事は来る6月10、11日に開催する

生研公開の準備である。生研公開も本所の目玉のイベントとして定着してきたが、先端的な研究内容にふさわしいプレゼンテーション、統一感などにもっと工夫をこらすべき”ということで、案内状をはじめ展示方法の新しいデザインに力を注いでいる。

専門は応用音響工学。騒音の制御からコンサートホール設計、快適な音環境の創造まで幅広い。生研の研究成果をマルチメディアを駆使して表現、アピールするテクノスタジオ構想にもそのセンスが生かされそうである。

(R. S)

## ■ 盛会の退官記念パーティ

3月23日に第1会議室において停年退官教官記念パーティが記念講演会に引き続いて行われました。本年は第4部高井信治助教授が退官されました。パーティは原島所長の挨拶で始まり、総長からの記念品が贈呈されました。所外からも北野大氏を含む多数のパーティ出席者もあり、高井先生の退官を惜しみつつ盛況の内に閉会となりました。(Y. M)



## ■ 外国人研究者・留学生との懇談会開かれる

3月19日(金)午後6時より健保会館において、恒例の外国人研究者・留学生と関係教職員との懇談会が140名にもものぼる参加で開かれた。第2部担当の今年度の懇談会は吉識教授の司会で、まず原島所長の挨拶に始まり、棚沢教授の発声による乾杯、次いで各部の外国人研究者・留学生によるスピーチが行われた。終始和やかな雰囲気の中で懇談が行われた会は、

国際交流室長木村教授の閉会の挨拶の後、全員で記念撮影を行い、

盛会のうちに午後8時頃散会した。(事務部 小川 誠)



## ■ 技術職員問題検討会より答申出る!

技術職員問題検討会では、1992年10月より6回の検討会を開催し、1993年3月25日に原島所長に答申を提出した。検討会で検討し

た内容は、主に技術職員の待遇改善に関するものであり、今後の検討方法等の提案も含まれている。本検討会は3月末日をもってその

活動を終了するが、是非その内容についてさまざまな角度から討議していただきたいと考えている。(技術職員問題検討会座長 魚本健人)



# ■大学院学生歓迎会開かれる

昨年に始まった歓迎会が、本年は4月20日に第1、2会議室において開催された。世話人の中桐教授の司会で、まずOBの新入生におくる言葉で始まった。生研紹介ビデオの放映、原島所長の挨拶・乾杯の音頭と続き、歓迎会は老若(?)あわせ熱気あふれる雰囲気の中進行した。参加者は、新入院生に在所院生、教職員を合わせ約

20名にのぼり、昨年を上回った。新入生が生研に所属することに誇

りをもつことを期待しつつ、閉会となった。(Y. M)



## VISITS

### ●外国人研究者講演会

3月9日(火)

司会：林 教授

Prof. Rainer Telle  
Institut für Gesteinshüttenkunde, Germany  
"Formation of Solid Solutions in Transition Metal Diborides"

3月23日(火)

司会：生駒教授

Prof. Mino Green  
Imperial College, England  
"New Lithography for Quantum Size Effect Pillar Structures on Semiconductors"

### ●博士研究員 (1993. 4月現在)

氏名	国籍・現職	受入研究室
Ling Hoe Ing	マレーシア	第5部 龍岡研
金 燦旭	大韓民国	第4部 七尾研
林 暎光	中国	第5部 半谷研
梁 承学	大韓民国	第3部 原島研
柳 奉奇	大韓民国	第4部 安井研
戴 毅	中国	第2部 小林研

3

## PERSONNEL

### ●永年勤続者表彰式

平成5年度の東京大学職員永年勤続者表彰式が4月12日に山上会館において行われた。全学から110名、本所からは4名の方が出席され、吉川総長から表彰状をいただきました。式に引き続いて祝賀会が催され、原島所長、鳥尾事務部長らと交えて、それぞれの20年を思い語りつつ、和やかなうちに散会しました。

第5部	文部技官	小駒 幸江
試作工場	文部技官	小野寺 章
経理課	文部事務官 用度掛長	国分 和雄
第2部	文部技官	高間 信行



## ● 転任・退官・昇任・新任のご挨拶

第3部  
教授  
石塚 満



昨年12月に工学部電子情報工学科へ移りました。その後生研の併任にさせていただいていましたが、3月で終了し、15年おりました思い出多い生研から離れました。第2の青春を生研で魅力ある方々の中で過ごさせてもらったという気持ちです。大学における研究に対する考え方も色々と教示され、また考えさせられました。研究に関しては生研と工学部では共通点は多いものの、幾分違いもあるように感じます。生研が自由度、柔軟性が高い面を大いに活かして、工学の研究所の理想的な姿を示されることを、今後は外部の仲間として楽しみにしております。

第2部  
講師  
安斎正博



平成5年4月1日より理化学研究所研究基盤技術部研究機器開発技術室（ラピッド・プロトタイプシステム開発チーム兼務）に転出致しました。生産技術研究所には卒論の学生から講師に至るまで14余年間おりました。

生研の皆様には何かとお世話になりました。これからは生研で培った知識を活かして、理研内における研究機器開発システムの構築と生産加工技術の研究に携わっていくつもりです。時々生研にお邪魔しますので、今後ともご指導・ご鞭撻をお願い致します。長い間本当に有難うございました。

第4部  
教授  
七尾 進



本年4月1日付で第4部複合金属素材部門の教授に昇進させていただきました。来し方をみれば、金属を中心

とした物質の構造・物性を、陽電子消滅、メスバウア効果、X線回析・散乱など種々の手法で追及する生活を送っているうちに、あっという間に月日が流れていったというのが実感です。研究の欲がわきにあり、心(頭脳?)と肉体の年齢は取らないつもりでも、戸籍年齢が容赦なく加算されていくのは厳しい。今後残された時間を大切にしながら、X線磁気ブラッグ散乱など心に期するテーマを追及し、自分のオリジナリティを発現するよう努力するとともに、生研の発展にいささかなりと貢献したいと思っています。

寄付研究部門  
グローブエンジニアリング  
助教授  
藤井輝夫



ダイビングを通じて海に興味を持ち、海という環境の大きさや激しさを肌で感じた。それゆえか、今は海中ロボットを駆り出して人間を海中から追い出すことに荷担していることに気づく。一方、巷では科学技術の発展が公害や環境破壊を引き起こし、人間疎外が進行していると取り沙汰されている。これからの工学は、このような状況を打破し、人間と機械、人間と地球が「なかよく」することを許容できる工学でありたい。

本年3月に学位を取得したばかりの新米研究者ですゆえ、右も左もよくわかりませんが、何事にも前向きに取り組んでいきたいと考えております。皆様のご指導とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

第1部  
講師  
半場藤広



4月1日付けで第1部応用数学部門の講師に就任いたしました。平成2年度に同部吉澤研究室を卒業し生研を離れてから3年ぶりに戻ってまいりました。その間米国への留学や建設会社の客員研究員等を経験しました。大学院時代から乱流モデルの理論や数値計算を研究してきましたが最近では気象の分野への応用にも興味があります。これからは腰を落ち着けてじっくりと研究に取り組みたいと思います。どうぞよろしく願いたします。



## 人事異動 (平成 5 年 3 月 17 日～平成 5 年 4 月 12 日)

発令年月日	氏名	異動事項	新官職(所属)	前官職(所属)・現官職
5.3.30	本田 嘉明	退職		グループエンジニアリング(トヨタ) 寄附研究部門客員助教授
5.3.31	高井 信治	停年		文部教官助教授(第 4 部)
	重田 達也			文部教官助手(第 2 部)
	井上 健			文部教官助手(第 4 部)
	高橋 宏仲	定年		文部技官(第 1 部)
	矢島 金作			文部事務官(総務課業務主任)(併任 同 第 3 部業務掛長)
	山下ミツ子			文部事務官(総務課第 4 部業務掛長)
	富井 薫			文部技官(総務課施設掛施設主任)
	初芝 謹治			文部事務官(附属千葉実験所事務主任)
	岡田 三男	勲章受贈		文部教官助手(第 3 部)
	宮下 和子			文部事務官(総務課第 2 部業務掛国際交流主任)
	大石 久己	退職		文部教官講師(第 2 部)
	安齋 正博			文部教官講師(第 2 部)
	木本 伊彦			文部教官助手(第 3 部)
	近藤 朗子			文部技官(第 3 部)
5.4.1	虫明 功臣	併任	附属千葉実験所長	文部教官助教授(第 5 部)
	榊 裕之		文部教官助教授(第 3 部)	文部教官助教授(先端科学技術研究センター)
	石塚 満	併任解除	文部教官助教授(工学部)	文部教官助教授(第 3 部)
	七尾 進	昇任	文部教官助教授(第 4 部)	文部教官助教授(第 4 部)
	會川 義寛	転任	文部教官助教授(お茶の水女子大学生活科学部)	文部教官助教授(第 4 部)
	堀内 潔	昇任	文部教官助教授(東京工業大学工学部)	文部教官助手(第 1 部)
	全 炳東		文部教官助教授(東京商科大学商学部)	文部教官助手(第 3 部)
	白木 亮司	休職更新		文部教官助手(第 5 部)
	坂村 博康	昇任	文部教官助手(第 4 部)	文部技官(第 4 部)
	土肥 浩	配置換	文部教官助手(工学部)	文部技官(第 3 部)
	岡本 伸英		文部教官助手(試作工場)	文部技官(試作工場)
	藤井 輝夫	採用	グループエンジニアリング(トヨタ) 寄附研究部門客員助教授	
	半場 藤弘		文部教官講師(第 1 部)	
	松本 益明		文部教官助手(第 1 部)	
	西村 勝彦		文部教官助手(第 2 部)	
	豊藤 雄一		文部教官助手(第 3 部)	
	襲谷 要		文部教官助手(第 4 部)	
	石井 秀司		文部教官助手(第 4 部)	
	太田 浩史		文部教官助手(第 5 部)	
	深野 海蔵	配置換	文部事務官(学生部学生課課長補佐)	文部事務官(総務課課長補佐)
	矢内 敬明	昇任	文部事務官(理学部附属樹木園事務主任)	文部事務官(総務課研究協力掛長)
	伊良波正之	配置換	文部事務官(教養学部附属学校事務掛長)	文部事務官(総務課厚生掛長)
	中村 明承		文部事務官(原子核課研究所総務掛長)	文部事務官(総務課給与掛長)

発令年月日	氏名	異動事項	新官職(所属)	前官職(所属)・現官職
5.4.1	小林 健策	配置換	文部事務官(教養学部・数理科学研究科総務課用度掛長)	文部事務官(総務課用度掛長)
	吉原 珠恵	昇任	文部事務官(工学部附属総合試験所研究協力掛長)	文部事務官(総務課第 3 部業務掛経理主任)
	小松崎 丈夫		文部技官(先端科学技術センター総務掛)	文部技官(総務課施設掛電気主任)
	中島 泉	配置換	文部事務官(応務部応務課法規第 1 掛)	文部事務官(総務課庶務掛)
	遠藤 勝之		文部事務官(総務課主計課監査第 1 掛)	文部事務官(総務課司計掛)
	並木 稔	転出	文部事務官(お茶の水女子大学会計課出納係)	文部事務官(総務課給与掛)
	伊藤 誠一	配置換	文部事務官(総務課課長補佐)	文部事務官(医学部附属病院管理課課長補佐)
	保戸塚吉明		文部事務官(総務課業務主任)(併任 同 第 3 部業務掛長)	文部事務官(教養学部・数理科学研究科主任)(併任 同総務課司計掛長)
	田川 文夫		文部事務官(総務課第 4 部業務掛)	文部事務官(教養学部・数理科学研究科教室事務掛長)
	吉澤 亮	転任	文部事務官(総務課研究協力掛長)	文部事務官(日本学士院会計係長)
	成井 和男		文部事務官(総務課給与掛長)	文部事務官(総務課研究部管理課用度掛)
	国分 和雄		文部事務官(総務課用度掛長)	文部事務官(学術情報センター管理課用度掛)
	西村 瑞夫	配置換	文部事務官(附属千葉実験所事務主任)	文部事務官(工学部機械工学科事務主任)(併任 産学機械工学科事務主任及機械情報工学科事務主任)
	古川 恭江		文部事務官(総務課庶務掛)	文部事務官(国際交流課国際学術第 2 掛)
	白髭 民夫		文部技官(総務課施設掛)	文部技官(施設部電気・通信設備課電気第 2 掛)
	平井美智子	昇任	文部事務官(総務課厚生掛長)	文部事務官(総務課庶務掛庶務主任)
	田中 裕子	配置換	文部事務官(総務課庶務掛主任)	文部事務官(総務課庶務掛文書主任)
	三村 さと子		文部事務官(総務課第 2 部業務掛経理主任)	文部事務官(電子計算機室事務主任)
	丸山 正子		文部事務官(総務課第 3 部業務掛経理主任)	文部事務官(総務課第 2 部業務掛経理主任)
	森 登子		文部事務官(総務課第 5 部業務掛庶務主任)	文部事務官(総務課第 5 部業務掛主任)
	佐藤 千恵		文部事務官(電子計算機室事務主任)	文部事務官(総務課第 1 部業務掛庶務主任)
	矢富 幸枝	昇任	文部事務官(総務課第 4 部業務掛契約主任)	文部事務官(総務課第 4 部業務掛)
	鈴木 敦子		文部事務官(総務課第 5 部業務掛経理主任)	文部事務官(総務課第 5 部業務掛)
	菊地 みつ子		文部事務官(総務課出納掛主任)	文部事務官(総務課出納掛)
	酒井 清武		文部技官(総務課施設掛建築主任)	文部技官(総務課施設掛)
	海空 静江		文部事務官(附属千葉実験所事務室会計主任)	文部事務官(附属千葉実験所)
	日色 勢津子		文部事務官(附属千葉実験所事務室庶務主任)	文部事務官(附属千葉実験所)
	高山 鉄也	配置換	文部事務官(総務課出版掛)	文部事務官(総務課庶務掛)
	春日 道憲		文部事務官(総務課第 4 部業務掛)	文部事務官(総務課出版掛)
	三沢 毅		文部事務官(総務課給与掛)	文部事務官(総務課第 4 部業務掛)
	田邊 明三	採用	文部技官(第 2 部)	
	飯塚 哲彦		文部技官(第 3 部)	
	澤田 知佳		文部事務官(総務課庶務掛)	
	小野 口幸雄		文部事務官(総務課庶務掛)	
	松本 健一		文部事務官(総務課第 1 部業務掛)	
	笹田 敬頼		文部事務官(総務課司計掛)	
	深井 光雄		文部技官(総務課施設掛)	
5.4.12	片山 恒雄	併任	附属国際災害軽減工学研究センター長	文部教官助教授(附属国際災害軽減工学研究センター)

## 日米欧の研究

寄付研究部門インテリジェントメカトロニクス(東芝)  
レン・ルオー



所長とともに東芝府中工場にて

米国ノースカロライナ州立大学の電気計算機工学科教授であり、昨年9月以来東芝寄付研究部門客員教授である私は、今まで国際会議などのため10回以上も来日しましたが、今回初めて日本に長く滞在しています。日本に来てから、日本文化の勉強・人々

との交流・いろいろな所での観光など、大変興味深く感じています。また、日本のスムーズな社会システム、特に経済の繁栄、科学技術の進歩、良好な治安は非常に印象的です。

アメリカ以外の国ではドイツにも7年間滞在しましたが、その経験からヨーロッパとアメリカの科学研究システムには相違点があると思います。一人の教授として、ヨーロッパにいるよりも日本とアメリカにいる方が、たくさんの論文を出版することに「圧力」を感じます。アメリカの論文では、新しいアイデアを持つ論文が多く、ヨーロッパや日本では、より完成度の高い結果が得られた後、論文を発表しているように思われます。現在、科学技術の日進月歩の中で、アメリカでは科学間の境界領域における研究が盛んに行われています。生研の研究システムと研究環境は、このような境界領域の研究を進めた国際的な一例であると思います。生研の大学院生・教授・会社の技術者との多くの交流を楽しみにしています。

# INFORMATION

## ■ 生研国際シンポジウムのお知らせ

第12回生研国際シンポジウム「地球環境モニタリング衛星利用者シンポジウム」が8月23～25日、主催東京大学生産技術研究所及びGEMS研究会のもとで開催されます。

会場は、東京大学生産技術研究所第1、2会議室です。参加ご希望の方は、第3部高木教授までご連絡下さい。

## ■ 平成5年度常務委員会名簿

第1部	* 岡野 達雄	渡邊 勝彦
第2部	* 藤田 隆史	浦 環
第3部	* 生駒 俊明	石井 勝
第4部	* 工藤 徹一	安井 至
第5部	* 龍岡 文夫	橘 秀樹

\*印委員は部主任



## ■生研公開のお知らせ

本年度の生研公開は、来る6月10日(木)、11日(金)の両日行われ、各研究室の研究成果が公開されます。例年通り、下記の日程で併記のテーマで講演会が開かれます。

6月10日	・第4部 林 宏爾 教授 「粉末冶金の進歩」
	・第5部 虫明功臣 教授 「都市の水環境を考える」
	・第2部 浦 環 教授 「海中ロボットの展開」
6月11日	第1部 岡田恒男 教授 「地震対策－建物の耐震診断のすすめ－」
	第3部 今井秀樹 教授 「暗号のおはなし」

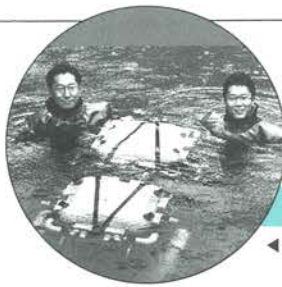
## ■平成4年度イブニングセミナーのお知らせ

本年度イブニングセミナーは「エレクトロニクスの最先端と夢」と題して、5月7日から7月2日までの毎週金曜日(6/11は休講)に開催されます。毎週一つのテーマを取りあげ、各講師の専門分野を中心に、今後のエレクトロニクスの展開や将来の生活への影響が夢をもって語られます。講演は各回とも第1会議室において午後6時から7時30分まで行われる予定です。

5月	7日	「21世紀の道路交通」	高羽禎雄 教授
	14日	「光ファイバ技術の進歩」	藤井陽一 教授
	21日	「ハイパーメディアの新しい展開」	坂内正夫 教授
	28日	「衛星による地球環境情報」	高木幹雄 教授
6月	4日	「並列コンピュータとデータベース」	喜連川優 助教授
	18日	「ロボットの世界」	橋本秀紀 助教授
	25日	「情報化時代を支えるネットワーク」	瀬崎 薫 助教授
7月	2日	「光子と電子を操る－新しい半導体の世界－」	荒川泰彦 助教授

## ■生研セミナー

コース	テーマ	講師	期日
184	ニューラルネットワークの基礎と新しい展開(第2回)	教授 浦 環 助教授 橋本 秀紀	7月12日(月) 13日(火)
185	技術者・研究者・事務職のための新しいパソコンのファイルマネージャ環境と応用	教授 藤井 陽一	9月22日(水)
186	射出成形現象の可視化実験解析(第2回)	助教授 横井 秀俊 助手 村田 泰彦	10月18日(月) 19日(火)
187	薄膜材料の設計・作成・評価	教授 山本 良一 教授 七尾 進 講師 光田 好孝 助手 山口 明	11月中2日間
188	水環境管理のためのモデル化とシミュレーション	教授 鈴木 基之 助教授 迫田 章義	12月上旬2日間
189	モーション・コントロール	助教授 橋本 秀紀	1月13日(木) 14日(金)
190	光学の基礎	教授 黒田 和男	1月中旬1日間



# 海の中の世界

海中ロボット 第2部 浦・藤井研

◀うみぼうず2匹

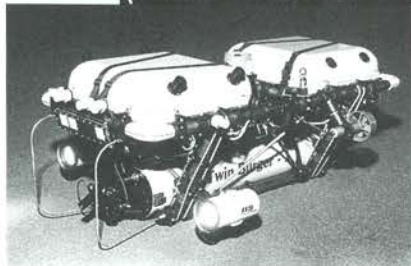
タンクを背負って海面に浮き、下の薄暗い世界を見ながら、「さあ潜るぞ」と自分を励ますとき、独特の緊張感がある。地獄へと吸い込まれていくようないやな感情に悩まされることがある。空を飛ぶ工学が天国へ向かう工学とすれば、海の底へ向かう工学は地獄へと降りる工学ではなかろうか。赤い色は数メートルで減衰してしまい、指を切ると黒い血が出てくる。海の深部は暗く、視程が短く、高い圧力にさらされ、電磁波も伝わらない馴染みの薄い環境である。世界最高峰のエベレストはおそらく百人を越える人間が登っているだろうが、マリアナ海溝の世界最深部に到達した人間は二人しかいない。

海が地球環境に及ぼす影響が計り知れないことは誰もが認める。が、同時に海そのものが知られていないことをもっと認識しなくてはならない。例えば、液体の二酸化炭素が海の底からどくどくと湧き出ているのが発見されたのはつい最近のことである。そ

ういった未知の海の中で計測や調査活動に専念する海中ロボットを作りだそうと研究開発を始め、海の中をなんとか泳ぐことのできるロボットをこれまでに3匹作った。地図のない海底面に沿って泳ぎ回る「プテロア150(PTEROA150)」、海面から海底までを頻繁に往復して海水を計る「アルバック(ALBAC)」、強力な並列計算機を搭載し発光して意志のやりとりをする「ツインバーガー1号(TWIN-BURGER)」の3匹である。働く日本人を見習って24時間泳げる「アールワン(R1)」は3年後に出来上がる予定である。プテロア150もアルバックも沼津の海を何度も潜っていて、経験が豊かになりつつある。ツインバーガーはまだプールでしか泳いだ事はないが、今年中に沖縄の海で泳ぐ計画である。3匹は写真のように全く違った格好をしている。このように、仕事の内容により、いろいろな形式のロボットがありうるのだが、前提として皆一人立ちしなくてはならない。

21世紀の海中はロボットの世界であるといわれている。新しい海中ロボットのコンセプトを作り、それを実現して地球環境の維持に貢献することが大学の研究者の使命であると浦・藤井研究室では思っている。(第2部 浦 環)

これから泳ごうとするプテロア150



まだ塩水には浸かかったことのないツインバーガー



戻ってきたアルバック

## 編集後記

4月より新しい室員を迎え田中肇新室長のもと新たなスタートを切った。2年の任期は短すぎる気もするが、ワークロードの大きさを考えれば、この位がよいのかも知れない。年月とともにニュースの在り方も変質するしまた人の考え方もさまざまなのだから、多くの人がニュースを作ることに携わる方が正しいかも知れない。何はともあれ今回も無事に送り出せてほっとしている。(Y. M)

室員メンバー

